

2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年2月13日

上場会社名 フリュー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 6238 URL <https://www.furyu.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 三嶋 隆
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部 財務経理部 部長 (氏名) 藤村 卓 TEL 03 (5728) 1761
 四半期報告書提出予定日 2020年2月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	20,578	—	3,140	—	3,123	—	2,431	—
2019年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	86.95	—
2019年3月期第3四半期	—	—

当社は、2019年3月期第3四半期は連結業績を開示しておりましたが、2020年3月期第3四半期より非連結での業績を開示しております。そのため、2019年3月期第3四半期の経営成績(累計)及び対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	23,962	18,623	77.7
2019年3月期	24,186	17,821	73.7

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 18,623百万円 2019年3月期 17,821百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2020年3月期	—	0.00	—		
2020年3月期(予想)				30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	28,000	—	3,900	—	3,850	—	3,000	—	107.66

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

当社は、2019年7月1日付で株式会社ウィーヴを吸収合併いたしました。また、2019年11月15日付で株式会社コアエッジの全株式を譲渡いたしました。これにより、2020年3月期(通期)は非連結での開示となりますが、通期業績予想の対前期増減率は、比較対象が異なるため、記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 6「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	28,296,000株	2019年3月期	28,296,000株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	751,925株	2019年3月期	325株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	27,966,736株	2019年3月期3Q	一株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

当社は、2020年2月13日公表の「非連結決算への移行及び2020年3月期個別業績予想に関するお知らせ」に記載の通り、2020年3月期第3四半期より非連結決算へ移行いたしました。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	6
(会計方針の変更)	6
(会計上の見積りの変更)	6
(セグメント情報等)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社は、2019年7月1日付で連結子会社であった株式会社ウィーブを吸収合併いたしました。また、2019年11月15日付で連結子会社であった株式会社コアエッジの全株式を譲渡いたしました。これにより、2020年3月期第3四半期累計期間より従来連結で行っておりました開示を単体開示に変更いたしました。なお、当第3四半期累計期間は、単体決算初年度にあたるため、前年同四半期の数値及びこれに係る対前年同四半期増減率等の比較分析は行っておりません。

当第3四半期累計期間（2019年4月1日～2019年12月31日）における経済環境は、政府による経済・財政政策を背景に、企業収益や雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調で推移いたしました。海外の政治、経済情勢の不確実性等により、景気の先行きは不透明な状況が続いております。

このような環境において当社は、企業理念「人々のこころを豊かで幸せにする良質なエンタテインメントを創出する！」のもと、プリントシール事業の拡大、若年女性層の顧客基盤を活用したマネタイズの多様化、キャラクターIP（知的財産）を利用した商品販売に注力してまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間の業績は、売上高20,578百万円、営業利益3,140百万円、経常利益3,123百万円、四半期純利益は2,431百万円となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

(プリントシール事業)

プリントシール事業におきましては、プリントシール機の新機種「AROUND20（アラウンドトゥエンティ）」「Melulu（メルル）」を発売いたしました。また、直営店「girls mignon（ガールズミニョン）等」の新規出店や既存店舗のリニューアル等を行い、プリントシール機全体としてのプレイ回数は、第3四半期累計で3,470万回（前年同期は3,262万回）となりました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は7,517百万円、営業利益は1,359百万円となりました。

(コンテンツ・メディア事業)

コンテンツ・メディア事業におきましては、プリントシール機ユーザーによるプリントシール画像取得・閲覧サービス「ピクトリンク」への入会が堅調に推移したため、2019年12月末における有料会員数は164万人（前年同期は163万人）となりました。また、カラーコンタクトレンズの販売においては、ECサイトによる販売及び自社オリジナルブランドの販売に注力いたしました。一方で、若年女性層の顧客基盤を活かした新規事業開発に取り組みました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は6,740百万円、営業利益は2,933百万円となりました。

(キャラクター・マーチャндаイジング事業)

キャラクター・マーチャндаイジング事業におきましては、多数の新規キャラクター著作権の獲得とその商品化を行い、クレーンゲーム景品及び高価格帯ホビー商品の販売が堅調に推移いたしました。また、中国における生産及び物流体制の強化や販売促進活動の強化に取り組みました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は4,677百万円、営業利益は227百万円となりました。

(ゲーム事業)

ゲーム事業におきましては、事業別に以下の内容に取り組みました。

家庭用ゲームソフト事業においては、3つの新作タイトルを発売いたしました。また、旧作における海外へのライセンス販売に取り組みました。

ゲームアプリ事業においては、既存の恋愛シミュレーションゲームの売上が堅調に推移いたしました。

アニメ事業においては、TVアニメ「ありふれた職業で世界最強」を中心に、ビデオグラム販売による売上や製作委員会の配分金収入等を計上いたしました。また、TVアニメ「ゆるキャン△」シリーズの続編放映に向けた企画やプロモーションに取り組みました。

この結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,642百万円、営業損失は60百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第3四半期会計期間末の財政状態は、総資産が23,962百万円、負債が5,338百万円、純資産は18,623百万円となりました。また、自己資本比率は77.7%となりました。

(資産)

資産につきましては、前会計年度末に比べ224百万円減少し、23,962百万円となりました。これは主にたな卸資産の増加(前会計年度末比1,000百万円の増加)があった一方で、現金及び預金の減少(前会計年度末比494百万円の減少)、固定資産の「その他」に含まれる関係会社株式の減少(前会計年度末比606百万円の減少)によるものであります。

(負債)

負債につきましては、前会計年度末に比べ1,026百万円減少し、5,338百万円となりました。これは主に未払法人税等の減少(前会計年度末比649百万円の減少)、流動負債の「その他」に含まれる未払費用の減少(前会計年度末比344百万円の減少)によるものであります。

(純資産)

純資産につきましては、前会計年度末に比べ802百万円増加し、18,623百万円となりました。これは主に四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加(2,431百万円)があった一方で、配当金の支払による利益剰余金の減少(848百万円)、自己株式の取得(786百万円)によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2020年2月13日公表の「非連結決算への移行及び2020年3月期個別業績予想に関するお知らせ」の通り修正しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,776,079	12,281,721
受取手形及び売掛金	3,689,228	3,523,626
電子記録債権	993,306	1,120,345
たな卸資産	1,198,889	2,199,638
その他	918,172	952,765
貸倒引当金	△2,680	△3,390
流動資産合計	19,572,995	20,074,708
固定資産		
有形固定資産	2,205,252	2,108,892
無形固定資産	212,955	205,378
投資その他の資産		
その他	2,200,959	1,579,294
貸倒引当金	△5,727	△6,234
投資その他の資産合計	2,195,232	1,573,059
固定資産合計	4,613,440	3,887,330
資産合計	24,186,435	23,962,039
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	498,564	685,531
未払法人税等	869,000	219,404
電子記録債務	1,772,461	1,559,703
賞与引当金	-	248,305
その他	2,487,898	1,827,711
流動負債合計	5,627,924	4,540,656
固定負債		
退職給付引当金	730,275	791,067
その他	6,629	6,629
固定負債合計	736,905	797,697
負債合計	6,364,829	5,338,353
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,639,216	1,639,216
資本剰余金	1,639,216	1,639,216
利益剰余金	14,549,050	16,131,851
自己株式	△314	△786,851
株主資本合計	17,827,168	18,623,432
評価・換算差額等		
繰延ヘッジ損益	△5,561	252
評価・換算差額等合計	△5,561	252
純資産合計	17,821,606	18,623,685
負債純資産合計	24,186,435	23,962,039

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	20,578,308
売上原価	9,130,249
売上総利益	11,448,059
販売費及び一般管理費	8,307,799
営業利益	3,140,260
営業外収益	
受取補償金	12,109
その他	2,901
営業外収益合計	15,011
営業外費用	
支払利息	199
為替差損	19,181
その他	11,950
営業外費用合計	31,330
経常利益	3,123,941
特別利益	
固定資産売却益	284
抱合せ株式消滅差益	223,251
特別利益合計	223,536
特別損失	
固定資産除売却損	26,862
関係会社株式評価損	92,943
特別損失合計	119,806
税引前四半期純利益	3,227,670
法人税等	795,999
四半期純利益	2,431,671

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2019年5月14日及び2019年11月13日開催の取締役会決議に基づき、自己株式751,600株の取得を行いました。この結果、当第3四半期累計期間において自己株式が786,536千円増加し、当第3四半期会計期間末において自己株式が786,851千円となっております。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(会計方針の変更)

該当事項はありません。

(会計上の見積りの変更)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当第3四半期累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				
	プリントシール 事業	コンテンツ・メ ディア事業	キャラクタ・マ ーチャンダイジ ング事業	ゲーム事業	計
売上高					
外部顧客への売上高	7,517,707	6,740,627	4,677,089	1,642,884	20,578,308
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—	—	—	—
計	7,517,707	6,740,627	4,677,089	1,642,884	20,578,308
セグメント利益又は損失(△)	1,359,546	2,933,763	227,834	△60,226	4,460,918

	調整額 (注) 1	四半期損益 計算書計上額 (注) 2
売上高		
外部顧客への売上高	—	20,578,308
セグメント間の内部売上高又 は振替高	—	—
計	—	20,578,308
セグメント利益又は損失(△)	△1,320,658	3,140,260

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△1,320,658千円は、全て全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社は、2019年7月1日付で株式会社ウィーブを吸収合併したため、業績管理区分の見直しを行い、従来「その他」に含めていた書籍の出版事業等を「キャラクタ・マーチャンダイジング事業」に統合しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。